

作品タイトル 「予感」

私は、ひとつの止まった形ではなく、いろいろなものが重なり合った形、見る人や見る場所・時間によって変わっていく形を作りたいと思っています。それは、流れるエネルギーを捉えようとすることであり、ひとつの形にとどまらないところにこそ、生命の本質があると思うからです。子どもが空の雲を見て空想するように、ご覧になる皆様が自由に私の作品の中に「あなただけの何か」を見ていただければと思います。私の作品はあなたの「予感」でありたいと思います。

今回の制作では、1月に岸和田市の竹林で竹を切って制作を開始し、3月3日に完成しました。竹は季節によってその状態や性質を変え、その竹を切るところから始まる作業の中で、私は季節を体で感じながら作品を作ります。今回の作品には春という季節が入り込んでいます。日本の春とは寒さではないかと思えます。昔の春の歌には、寒い、寒い、と延々続き、最後にその寒さが少し和らいだね、春が来るね、というようなものが多くあります。「予感」は、春を示してもいます。

寒さの中で凝縮されたエネルギーが一斉に芽吹き、花を開き、枝葉が広がっていく・・・またそこに流れる風、雲、水・・・そのような動きを竹によって表現しようとしてきました。

今回「レクサス貝塚」が私の竹アートを起用してくださったことで、新しい制作と発表の場が私に与えられただけでなく、岸和田市との結びつきが生まれました。竹が企業と行政をつなぎ、地域に新しい取り組みが生まれようとしています。地域の竹が地域で活用される。それが、マイナスの資産である竹を、用途も量も豊富な資源、というプラスに転換する第一歩だと思えます。その変化はいずれ、私たちの生活や経済全体にも影響を与えていくでしょう。企業と行政が一体となった地域の試み。それが「レクサス貝塚」と岸和田市から始まったことには大きな意味があると思えます。「予感」という言葉には、このはじまりへの希望が込められています。